

## Acuson

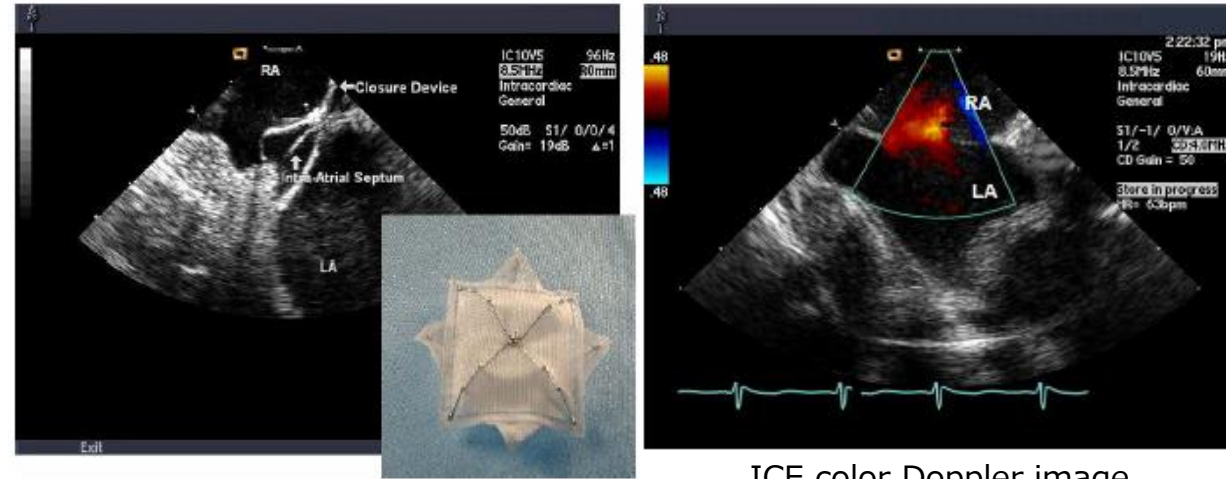
# 心腔内に挿入し超音波画像を描出する超音波カテーテル「AcuNav」を開発 (2000)

従来の経胸壁および経食道超音波画像診断では、解剖学的構造へのアクセスが制限されるため、高度なカテーテルを用いた心臓血管インターベンション手技に必要な画像診断要件を満たせない場合が少なくない。心腔内超音波検査(ICE: Intracardiac echocardiography)は、ほぼ無制限のアクセスを可能にし、心臓血管構造および心臓内デバイスの高画質画像を提供することで、心臓血管インターベンション手技を正確に誘導する上で非常に効果的であることが示されています。ICEは、心房細動治療、弁修復、心房中隔欠損閉鎖術におけるデバイス誘導のための画像診断ツールとして、経食道超音波検査に取って代わりつつある。

10 Fr. 90cm AcuNav™超音波カテーテルは、1999年末にFDAの承認を取得し、2000年半ばにAcuson社(現シーメンス・メディカルソリューションズ)によって市場に投入された。

AcuNavカテーテルは、使い捨てカテーテルの先端に64素子、7.0MHzのフェーズドアレイ超音波トランスデューサーを搭載している。カテーテルは10Fr.(挿入可能長90cm)と8Fr.(挿入可能長110cm)の2サイズが用意されている。

出典：[ACUNAV ICE Catheters](#)  
[Advances in Catheter-Based Ultrasound Imaging](#)



Photograph of the CardioSEAL® PFO closure device (NMT Medical, Boston, MA) and B-mode ICE image of the device after deployment in the intra-atrial septum.

ICE color Doppler image showing example of ASD.



Photograph of AcuNav 8 Fr. and 10 Fr. ultrasound catheters. (Siemens Medical Solutions, USA)